

一般社団法人日本看護研究学会

第41回学術集会抄録集

「日本から世界へ 看護，発信！」

— いのちと暮らしを支える 和と輪と環と話 —

会 期：平成 27 年 8 月 22 日（土）・23 日（日）

会 場：広島国際会議場

会 長：宮 腰 由紀子

（広島大学大学院医歯薬保健学研究院 教授）

鼎 談

保健医療そして看護におけるビッグデータの活用と課題

話題提供 水 流 聡 子（東京大学大学院工学系研究科 特任教授）

高 木 廣 文（東邦大学看護学部 教授）

中 澤 港（神戸大学大学院保健学研究科 教授）

進 行 梯 正 之（広島大学大学院医歯薬保健学研究院 教授）

第1日目 15：40～17：00

会 場：第1会場（フェニックス）

保健医療とビッグデータ

大きく進んできた医療情報のIT化により、ビッグデータを用いた医療の発展の可能性に期待が寄せられています。とともに、危険性も存在していることは事実です。

最近では、スマートフォンやウェアラブル端末により、生活習慣に関する情報を蓄積し、それらを分析することで、健康管理サービスなどの新市場が生み出され始めています。一般消費者向けの遺伝子検査サービスも本格化し、遺伝情報もビッグデータに取り込まれています。「ナショナルデータベース」「データヘルス」など、医療情報を活用する動きも本格化しています。

ビッグデータの活用機運が高い今日、水流聡子氏にデータを用いて話題提供していただきながら、疫学および衛生統計学で活躍されている中澤港氏、高木廣文氏に加わって頂き、さらに梯正之氏を進行役として、これからの保健医療と看護における活用と課題について討議していただきます。会場の皆さまからも、熱い御意見をお願いいたします。